資料３－１

スウェーデンのアフリカ豚熱清浄性回復に伴う輸入再開に係るリスク評価報告書（概要版）

2026 年３月 27 日
消費・安全局動物衛生課

Ⅰ．目的

スウェーデン王国（以下「スウェーデン」という。）からの生きた豚及び豚由来製品については、2023 年９月の同国の野生イノシシにおけるアフリカ豚熱（ASF）発生に伴い輸入一時停止措置を講じている。2024 年９月、ASF 清浄化に伴い、同国から輸入再開要請を接受した。同国から収集した情報に基づき、同国の ASF 清浄性並びに生きた豚及び豚由来製品の輸入停止措置を解除した場合の日本への ASF の侵入リスクについて定性的評価を実施した。

Ⅱ．スウェーデンにおける動物衛生の管理体制

１．獣医組織体制

家畜疾病管理に関する中央管轄機関であるスウェーデン農業庁(Swedish Board of Agriculture, SBA)には「District Veterinarians」と呼ばれる部門があり、同部門に所属する獣医師は国家公務員として雇用され、緊急時の動物医療サービスの提供、公的検査の実施及び重大な動物疾病（主として家畜伝染病）が疑われる又は確認された場合の対応を担っている。

２．検査機関及び診断体制

スウェーデン獣医研究所（SVA）が国家リファレンスラボラトリーとして法定伝染病の診断を担当している。ASF の発生時には、SVA がリアルタイム PCR 検査及び ELISA を実施し、初期診断を行う。さらに、陽性と判定された検体は、EU（欧州委員会）の ASF 専門機関（EURL-ASF スペイン CISA）に送付され、遺伝子型の決定（genotyping）及び必要に応じてゲノムシーケンスが実施される。

３．養豚に係る登録制度及び豚の移動管理

SBA が中央登録簿を管理しており、屋内外の飼養形態を問わず豚を飼養する全ての施設について、登録義務が課されている。また、豚は認可された耳標又は刺青によって識別されなければならない。全ての豚の移動は、移動後７日以内に SBA の移動登録システムに報告されなければならない。

Ⅲ．スウェーデンにおける ASF 発生及び防疫措置

１．スウェーデンにおける ASF 発生概要

2023 年 8 月 27 日、ヴェストマンランド県ファーゲルスタ市において野生イノシシの死体が発見され、骨髄を用いたリアルタイム PCR により ASF ウイルス（ASFV）陽性が確認された。これがスウェーデンにおける ASF の初確認である。2024 年 7 月までに限定された区域（図１）で野生イノシシ 70 例の ASFV 陽性が確認されたが、病理学的検査等により、これらの死亡時期はいずれも 2023 年 9 月末以前と推定されている。なお、家畜豚での ASF 発生事例は確認されていない。

２．スウェーデン当局による対応

2023 年９月７日、スウェーデン農業庁（SBA）は、EU 法に基づき、約 1,000 ㎢の感染区域を設定した。その後、同区域は 2023 年 11 月 30 日までに再編され、ASF 陽性個体が集中した中心 130 ㎢のエリアをフェンスで囲い、これを制限区域 II（RZII）として新たな感染区

域とした。残余区域については縮小のうえ制限区域Ⅰ（RZI）として設定され、全体規模は約600 km²となった。（図１）
感染区域及び制限区域内では、全ての家畜豚（56頭）の予防的殺処分や野生イノシシの死体の積極的探索、RZII内の野生イノシシの全頭駆除等が行われた。

３．ASFサーベイランス

2023年11月30日から2024年９月24日まで、制限区域周辺の６自治体に所在する飼養豚の飼養施設20戸での死亡個体を対象に抽出検査が実施された。結果、28頭全てのASF陰性が確認された。また、制限区域周辺以外の全国においても、疑い事例のASF検査が行われ、16頭全ての陰性が確認された。
野生イノシシについては、2023年９月６日から2024年９月24日まで、制限区域及びその周辺(サーベイランス区域)(図２)での死亡個体のアクティブサーベイランスが実施された。また、これら以外の地域においても、野生イノシシの死亡個体の通報によるパッシブサーベイランスが実施された。制限区域内では、250頭中70頭がASF陽性となったが、制限区域外の地域では、435頭の検査が行われ、全て陰性が確認された。

４．疫学的評価

分離されたASFウイルスは、遺伝子型Ⅱ型（EUレファレンスラボラトリー推奨の型別ではグループ19）に属するウイルスであることが確認された。
野生いのししの死体の腐敗状態等から、ウイルス侵入時期は2023年5月8日～6月28日の範囲であり、最後の野生イノシシの死亡事例は2023年９月下旬と推定された。
また、スウェーデンの野生イノシシ個体群は周辺諸国のASF発生地域とは地理的連続性がなく、自然な個体移動によるウイルス侵入の可能性は低いと考えられた。そのため、感染源としては、感染国由来の家畜豚又は野生イノシシの ASFV 汚染肉・肉製品の廃棄物が環境中に不適切に投棄され、それを野生イノシシが摂取した可能性が最も高いと推定された。

Ⅳ．まとめ

2023年8月27日、ヴェストマンランド県ファーゲルスタ市において、スウェーデンで初となる野生イノシシのASF感染事例が発見された。スウェーデン当局は発生直後から法令に基づき、感染区域（約1,000 km²）の迅速な設定、野生イノシシについて、中心130km²のRZIIのフェンスによる物理的隔離、死体の徹底的な探索・焼却、RZII内の全頭駆除、RZIの管理捕獲など、強力な封じ込め措置を一貫して講じた。これらの対策は感染伝播リスクを早期に抑制する上で有効に機能したと評価される。スウェーデンは、2024年９月25日に制限区域解除がEUにより承認され、2024年9月30日にWOAHによってASF自己清浄化宣言が承認された。
以上のことから、ASF 発生の早期検知や感受性動物への侵入防止に向けた取組が引き続き維持・徹底される限り、スウェーデンをASFの清浄国として再認定し、同国からの生きた豚及び豚肉製品の輸入を再開しても、ASFが我が国へ侵入するリスクは無視できると考えられた。

図１．スウェーデンでの ASF 発生地点及び制限区域

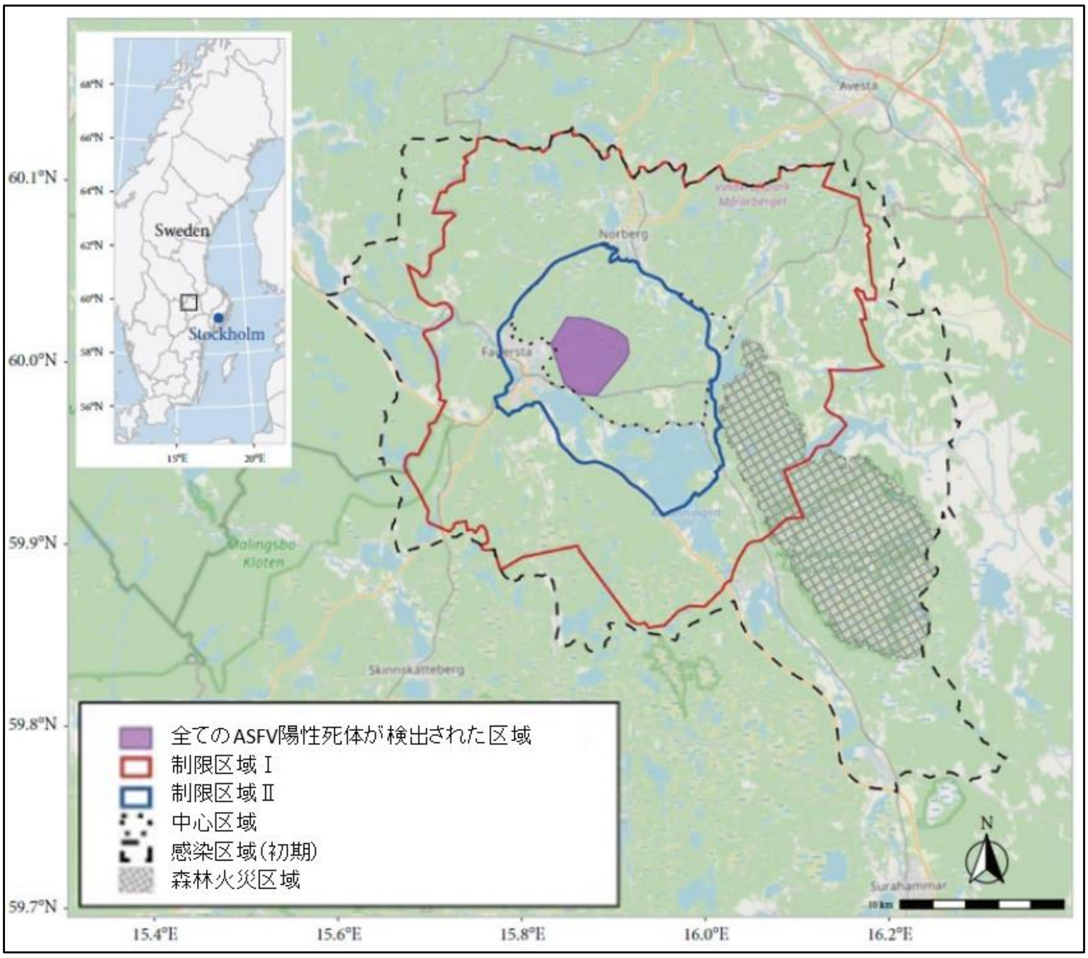
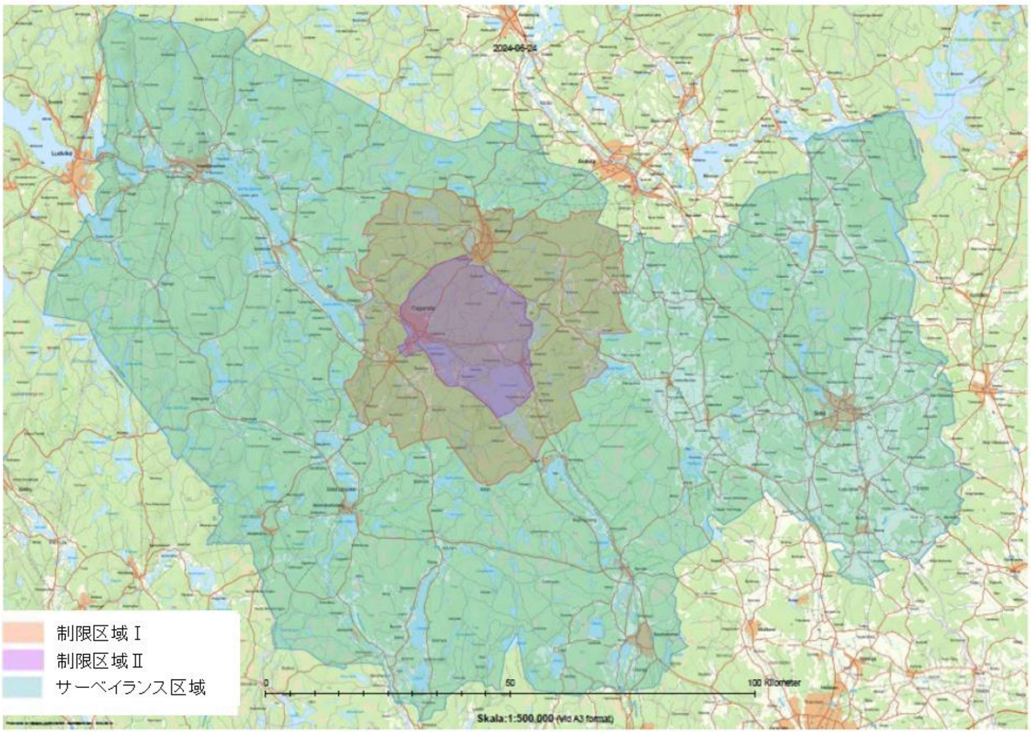
図２．サーベイランス区域